

87歳の男性。嚥下困難を主訴に来院した。

現病歴：9カ月前から前胸部に食物のつかえを感じるようになった。これまでに同様の症状を認めたことはない。4カ月前から食物がつかえたときにお茶で流し込むことが月に2回程度あった。最近、食後に嘔吐もするようになり来院した。体重減少はない。

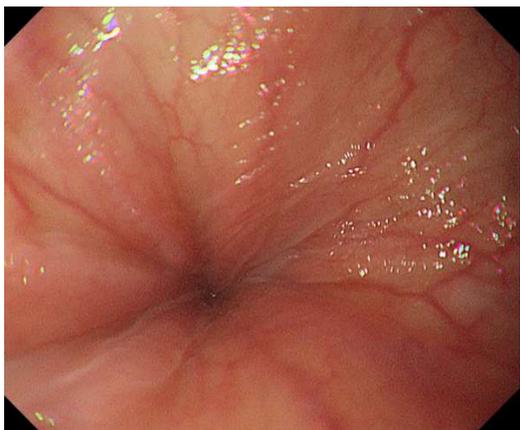
既往歴：特記すべきことはない。

生活歴：喫煙は20本/日を20年間。飲酒は現在禁酒中(72歳までビール大瓶1~2本/日)

家族歴：父親に胃癌

現症：意識は清明。身長167 cm、体重57 kg。体温36.7 °C。脈拍77 /分、整。血圧125/80 mmHg。呼吸数16 /分。SpO₂ 99 % (room air)。眼瞼結膜に貧血はなく、眼球結膜に黄染を認めない。腹部は平坦。軟で、肝・脾を触知しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部に膨隆を認めない。圧痛と反跳痛とを認めない。腸雑音に異常を認めない。腹水を認めない。下腿浮腫を認めない。上部消化管内視鏡検査(A)と食道造影検査(B)の結果を以下に示す。

A



B



1 考えられるのはどれか。

- a 食道裂孔ヘルニア
- b 食道静脈瘤
- c 逆流性食道炎
- d 食道アカラシア
- e 食道癌

2 治療法をして適切なものはどれか。2つ選べ。

- a 内視鏡的粘膜下層剥離術
- b Nissen 法
- c ニフェジピン投与
- d 副腎皮質ステロイド投与
- e 経口内視鏡的筋層切除術

21歳の女性。下痢と粘血便と腹痛を主訴に来院した。4か月前から微熱、下腹部痛、下痢を認めた。2週間前から3~4行/日の粘血便を認めるようになった。身長163cm、体重74kg。体温36.5℃。脈拍98/分、整。血圧107/79mmHg。呼吸数16/分。SpO₂98%(room air)。眼瞼結膜に軽度の貧血を認める。眼球結膜に黄染を認めない。腹部は平坦。軟で、肝・脾を触知しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。圧痛と反跳痛とを認めない。腹部全体に痛みあり。腸雑音に異常を認めない。血液所見：赤沈15mm/1時間、赤血球320万/ μ L、Hb9.5g/dL、白血球7900/ μ L。下部消化管内視鏡の結果(A)(B)を以下に示す。

A



B



1 認められる所見はどれか。2つ選べ

- a 血管透見の消失
- b 輪状潰瘍
- c 縦走潰瘍
- d 白苔付着
- e 偽膜形成

下部消化管内視鏡検査と同時に実施された生検にて微小陰窩膿瘍を認めた。

2 治療として最も適切なのはどれか。2つ選べ

- a 大腸全摘出術
- b 抗菌薬投与
- c メサラジン投与
- d 副腎皮質ステロイド投与
- e 抗コリン薬投与

60歳の男性。突然、吐血をしたため来院した。

現病歴：2年前に健康診断で肝障害、汎血球減少を指摘された。その後近医にて肝硬変の診断がついていた。

既往歴：糖尿病。

生活歴：喫煙歴と飲酒歴はない。

家族歴：特記すべきことはない。

現症：意識は清明。身長172 cm、体重73 kg。体温36.4 °C。脈拍72 /分、整。血圧128/62 mmHg。呼吸数20 /分。SpO₂ 99 % (room air)。眼瞼結膜に貧血はなく、眼球結膜に黄染を認めない。腹部は平坦。軟で、肝・脾を触知しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は膨隆しているが、圧痛と反跳痛とを認めない。腸雑音に異常を認めない。腹水を認めない。手掌紅斑を認める。

検査所見：血液所見：赤血球368万 / μ L、Hb 11.8 g/dL、Ht 38 %、白血球3,800 / μ L、血小板7.0万 / μ L、プロトロンビン時間45 % (基準80~120)。血液生化学所見：総蛋白6.5 g/dL、アルブミン2.8 g/dL、総ビリルビン2.8 mg/dL、AST 45 単位、ALT 25 単位、ALP 245 単位 (基準260 以下)、 γ -GTP 45 単位 (基準8~50)。免疫学的所見：HBs抗原陰性、HCV抗体陽性、抗核抗体陰性、抗ミトコンドリア抗体陰性、 α -フェトプロテイン1,500 ng/mL (基準20 以下)。ICG試験(15分値)42 % (基準10 以下)。静脈路を確保したうえで行った食道内視鏡検査を実施したところ出血を認めた。

1 直ちに行う治療として適切なのはどれか

- a 赤血球濃厚液輸血
- b 新鮮凍結血漿輸血
- c 止血剤投与
- d 内視鏡的静脈瘤結紮術
- e プロトンポンプ阻害薬投与

入院後に行った腹部造影CTにてS8領域に5 cm大の早期濃染を認める。門脈本幹に異常を認めない。その他の臓器に異常を認めない。

2 治療として最も適切でないものはどれか。

- a 肝切除術
- b 肝動脈動注化学療法
- c 肝移植
- d 放射線療法
- e 抗癌化学療法